

夏秋ナスのふくしま型ネットハウス栽培

福島県農業総合センター 作物園芸部
平成18~19年度農業総合センター試験成績概要
分類コード 03-05-17182300

部門名 野菜 - ナス - 環境調節、作型・栽培型、病害虫防除
担当者 木村善明・太田弘志

新技術の解説

1 要旨

ふくしま型ネットハウスの利用拡大を進める中で、夏秋ナス（夏から秋に収穫するナス）に適した栽培法を検討し、収穫する果実全体に占める良好な果実の割合を高めることができる栽培技術を構築した。

- (1) ふくしま型ネットハウス栽培は、糸で編んだ網目の細かいネットを、簡単な骨組みのパイプハウス全体に張ったハウスの中で、作物を栽培する方法で、ガの仲間やアブラムシなどの害虫がハウスの中に入り込むことを防ぐことができる。（図1）。
- (2) 夏秋ナスのネットハウス栽培では、強い風によってナスの果実に傷がつくことがほとんどない。また、ネットハウスの中に栽培期間を通してミツバチを放すことによって、受精不良の果実（受精がうまく行なわれないため形がいびつな果実）など不良な果実を減らすことができる（図2）。
- (3) 夏秋ナスのネットハウス栽培では、露地栽培（ネットハウスを使わない外の畠での栽培）に比べて不良果が減ることにより、収穫した果実全体に占める良好な果実の割合が大きく高まる（図2、表1）。

2 期待される効果

夏秋ナスのネットハウス栽培では、ガの仲間やアブラムシなどの害虫がハウスの中に入り込まないため、殺虫剤（害虫を殺すための農薬）を使う回数を減らすことができる。さらに、風によってナスの果実に傷がつくことを防ぐことにより、安定して良好な果実を生産することができる。

3 適用範囲

県内全域で利用できる。

4 普及上の留意点

- (1) 研究に使用したネットハウスには、網目の大きさが0.4mmのポリエチレンの糸で織った防虫ネットを張った。
- (2) 防虫ネットはハウスの中にナスを植え付ける前から収穫が終わるまでハウスに張る。なお、害虫がナスの苗や作業を行なう人に付いて、ハウスの中に入らないように気をつける。
- (3) ハダニやホコリダニなど極めて小さい害虫はネットの網目を通るため、ネットハウスでは防ぐ効果があまりない。そのため、ナスをよく観察し、これらの害虫を見つけた場合はすみやかに防除対策をとる。
- (4) 夏秋ナスのネットハウス栽培では、受精不良の果実を減らすために、植え付け時から収穫終了時までの全期間、ハウスの中に必ずミツバチを放す。ミツバチの必要数は、10aあたり1~2群（約20,000匹/群）を基本に、ハウスの大きさや配置によって増減する。なお、農薬を使うときは、ミツバチの働きを妨げないよう十分気をつける。

具体的データ等



図1 ネットハウスの様子

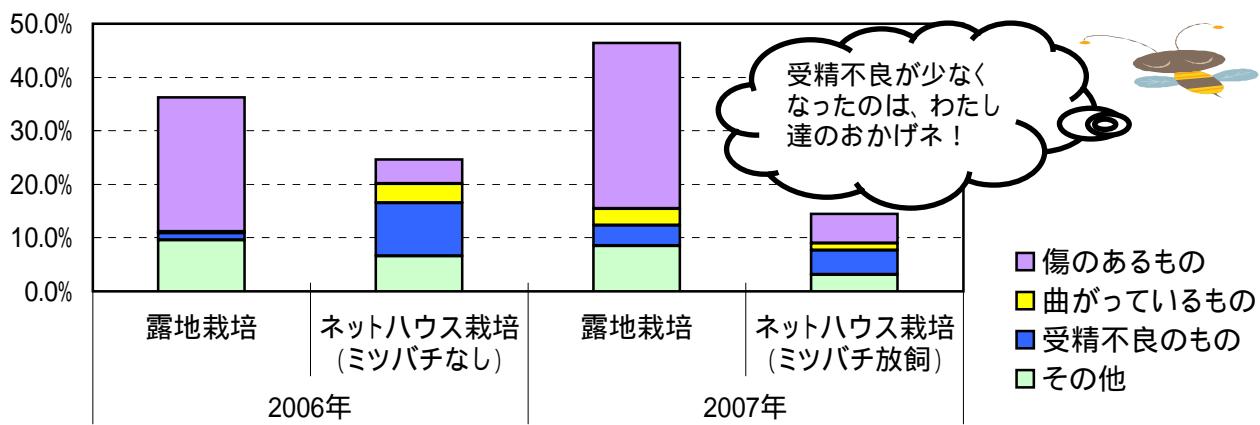


表1 露地栽培及びネットハウス栽培における収量及び商品化率

栽培方法	収量				商品化率 (%)	
	収穫した 果実数 (果/a)	収穫した 果実重量 (kg/a)	規格内の 果実数 (果/a)			
			規格内の 果実数 (果/a)	規格内の 果実重量 (kg/a)		
露地栽培	6035	540	3594	321	59.6	
ネットハウス栽培	7424	662	6481	582	87.3	

注1)収穫期間は、2007年6月8日～9月30日である。

注2)福島県が定めるナスの出荷規格に基づき選別した。

注3)商品化率は、規格内の果実数/収穫した果実数×100により算出した。

その他

1 執筆者

木村善明

2 主な参考文献・資料

なし